

平成 29 年度 第 1 回庄原市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成 30 年 2 月 8 日 (木) 午後 3 時開会

2. 場 所 庄原市役所本庁 5 階 第 2 委員会室

3. 出席者

【構成員】

木山耕三市長 牧原明人教育長 末信丈夫教育委員
横山和明教育委員 神本久美教育委員 立花有佐教育委員

【事務局】

寺元豊樹企画振興部長 片山祐子教育部長
加藤武徳企画振興部企画振興課長 荘川隆則教育部教育総務課長
中重秋登教育部教育指導課長
ほか担当職員 (4 名)

【議事進行】

木山耕三市長

4. 欠席者 なし

5. 傍聴人 2 名

6. 開 会

7. 説明事項

- ・庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画に伴う今後の取り組み
配付資料に基づき、これまでの経緯及び今後のスケジュール、計画進行の際の懸案事項について事務局より説明を行った。

(横山教育委員)

先般、2 月 1 日に市の PTA 連合会を対象に説明を行ったとのことだが、その時にどのような意見が出たのか情報提供をしていただきたい。

(事務局)

2 月 1 日に庄原市 PTA 連合会の役員を対象に説明会を行った。

説明会では統合の時期について、計画書のスケジュールが分かりにくいという意見をいただき、説明会の開始の年度、統合の予定年度について説明した。

また、統合することで地域が寂れてしまう、市は地域の活性化に取り組むべきではないかという意見もあった。

高野地域では通学について、降雪により授業に遅れることがあれば、高野から通う生徒は不利な状態が生まれるのではないかと、またクラブ通学については地域を越えて支援を行ってほしいという意見もあった。

さらに、廃校になった後の施設の利活用について市全体で考えるべきという意見もあり、教育委員会としては地域で活用していただくように協議させていただくこととなるが、市全体で取り組む必要があると回答している。

(横山教育委員)

市の PTA 連合会へ説明された時の雰囲気はどうだったのか。

(事務局)

保護者は子供の教育環境の充実ということで、学校の適正配置については特に反対意見もなく一定の理解をいただいているものと思っている。しかし、先ほど挙げたような不安要素もあるので、課題に対して対応できるように案を示しながら取り組んでいく。

(横山教育委員)

全体としては受け入れてくださっていると考えていいのか。

(事務局)

人数が多くなる環境で学ぶことはよいことであるという意見もあり、適正配置を否定する意見はなかった。今回の説明は個別の説明ではなく市全体を見渡した説明であり、今後、各地域へ説明に向く際には様々な課題を見据えて、丁寧に説明してほしいという意見をいただいた。

(牧原教育長)

「地域が寂れる」という意見に対しては、教育の中身を充実し、教育の環境を整えることがこの適正配置の大きな目的であると説明させていただいた。子供達に学力はもちろん、社会性やこれから生きていく力をつけるためには一定の人数が必要で、切磋琢磨し学び合うという機会を作ることが肝要でこれから生きてくる。一定の人数がいる学び舎の中で学ぶことは、将来大海に出てもやがて故郷を見つめ直し、そこで学んだことが原動力となるような生き方にも繋がり、地域を活性化

する源にも繋がると考えている。

(木山市長)

先ほど市 PTA 連合会全体の中で説明をしたとのことであったが、我々は地域から厳しいご意見をいただくことがある。地域へ説明に出向いた時、教育論から外れてこの地域の賑わいはどうしてくれるのか、子供達が地域に魅力を感じなくなったらどうするのか、というマイナスな意見もあると思うが、適正配置をした時に子供達に確たる成果が出ることや、今の教育環境で十分なのかということではしっかり話をしていく必要がある。

(立花教育委員)

説明の順番は保護者が先でその後に地域なのか。

(牧原教育長)

地域の声が出ると保護者が意見を出しづらいという地域もあるようで、先日の市 PTA 連合会の説明会の時に、まずは保護者の意見をしっかり聞いて丁寧に説明して欲しいと言われた。当然、地域への説明も必要であるが、説明の順番は保護者へ説明し、その後地域へと考えている。

(木山市長)

市 PTA 連合会の説明会でスケジュールが分かりにくいことや、適正配置をすることで地域が寂れる、高野地域では降雪の影響で教育に差が出るのではといった意見もあるようだが、対応策は十分なのか。

(事務局)

全国の取り組みを参考にしながら教育委員会で検討しており、個別の対象地域などへの説明会には対応策を持って出向きたいと考えている。

(事務局)

過去2年間の降雪による休業状況について調査したが、どの学校も1年間に1回程度で、高野地域は積雪の多い地域ではあるが、1～2時間遅れで授業を行っており、丸1日の休業は少ない。授業日数を確保しなければならないという点では、夏休みの期間で調整し、今後においても工夫をしながら授業日数の確保に努める。

(牧原教育長)

今年も寒い日が続いているが、まだ1度も休業になっていない。高野地域は除雪

体制や機能が充実しており、その点においては今後も関係機関との連携が必要であると考えている。

(末信教育委員)

先日比和地域で除雪について話を聞く機会があったが、通勤前に除雪しないと通勤・通学が難しいので、早朝から除雪作業をしなければいけないとのことであった。それだけの熱意で除雪を行っていただいているが、予算面で配慮して継続いただけるようお願いしたい。

またバスでの通学となる場合は、バスや運転手の確保にはどの程度の予算が必要になるのかなど、具体的に話をしていかなければならない。

さらに、なぜ適正規模・適正配置が必要なのかを丁寧に説明しなければならない。今の児童達の状況を具体的に示しながら、理解していただき、適正規模・適正配置をしてやっぱり良かったと思えるような状況を教育委員会も含め学校も創り上げていくことが重要であり、それは庄原で学んで良かったという教育に繋がる。

冒頭の市長あいさつに来年度の予算について話があったが、来年度は新学習指導要領が実施されるということもあり、ぜひとも予算増額をお願いしたい。

新学習指導要領に対応できる環境をつくる必要がある。

(木山市長)

私の立場で言うと、適材適所に予算を組ませていただくとしか言えないが、今回の新学習指導要領による対応策に必要であれば、私と教育長の間で協議をさせていただく。

(横山教育委員)

先般の教育委員会議でも話をしたが、懸案事項にも書いてあるとおり複式学級解消による教育効果、新しく道徳科・英語科が始まるということがこの度の適正配置を行った理由にもなっていることを理解してもらうべきである。広く市民へ理解を求めていかなければいけない。児童達が新しい学習指導要領の内容をしっかり学べる環境を整えていくことが大切である。

大規模校へ行って学力が低下していくようではいけない。適正配置して良かった、学力がついたというのが第一である。

以前、事務局へも聞いたことがあるが、学力面で小規模の学校が有利なのかどうか、なかなか数字で表すことは出来ない。そこを庄原市独自の手立てを打って、新しく適正配置された学校へ行くと学び合う教育環境の中で学力がアップしたとなるよう、結果を出して欲しい。

また、先ほど英語科が新しく始まるとのことであったが、英語の授業でタブレッ

トが有効であると思うので、ぜひとも推進していただきたい。

(木山市長)

確かに、学校の統廃合により学力が落ちるということは絶対にあってはならない。複式学級では本当に学力が付かないのか、逆に学習面で効果が出ているという議論もよくあるが、そこを示したものが何かあるのか。

(牧原教育長)

年度によって取り組みが違うので難しい。また庄原市独特の課題として、ずっと複式学級でいく学校と、複式、単式、複式という組み合わせがある学校があり単純に比較が出来ない。また学習指導要領が複式学級を想定した内容となっていない。新しい学習指導要領で道徳科や英語科を複式学級で教えるとなると様々な困難性があり、やってやれないことはないと思うが、複式学級という形で行うのは望ましくない。

(末信教育委員)

道徳科について、今までの授業と違い子供達に議論させるような教育内容となる。議論をさせる授業を仕組むのが国の方針であるようだが、複式学級で教科書があつて少人数となると、論議できる状況にならないと心配する。全国どこでも同じような条件で勉強できる環境を作つてあげることが最低限必要である。

(立花教育委員)

先日の議会では、3人の子どもを複式学級で育てたといわれる方もいらつしやつたが、その時代と今の学習指導要領は全く違うので、そこを理解していただくために学校を訪問して今の現場を知っていただきたい。適正配置には反対だという方に学校の現場を見ていただきたい。

(牧原教育長)

以前の複式学級はカリキュラムの組み方が違って、今は認められていないものがある。例えば、3、4年の2年間で習得すればいいという考え方で4年生の児童でも3年生の勉強をしてその後4年生の勉強をするといった方法である。もし、その児童が転校した場合、まだ習っていないということもあった。今は工夫や研究を重ねて複式学級を行っているが、単式学級にする方が望ましい姿であると考へている。しかし、複式学級がある以上は、複式学級の授業を研究しなければいけないし、複式学級でも力をつけていかなければいけないと思つている。

(横山教育委員)

私は教育委員になって初めて複式学級を見させていただいたが、非常にショックを受けた。これは厳しいという印象を受けた。複式学級で教えるにはたくさんの準備と力量が毎時間必要であり、教員に負担がかかる。複式学級で育った方々が反対するのは単式学級での授業を見ずに言っているのかもしれない。お互いが知らないのかもしれない。しかし、今後の学習指導要領では複式学級での授業は厳しだろうと実感した。

(立花教育委員)

それは私も実感した。

(牧原教育長)

今までは議論をしなくても答えが1つ見つければそれで良かったが、今からは答えが1つではない時代の中で、自分はそれをどう理由つけて相手に説得させるかということをしなないといけない。その中で一定の規模がないと、たとえ先生が3通り、4通りの方法を持って授業に望んだとしても子供が40人いれば40通りの答えが出る。我々はそういうメリット、デメリットを保護者に理解していただかなければならないと思っている。もちろん、複式学級でも単式学級でも当然授業を研究しなければいけないが、複式学級となるとより工夫の必要や困難性がある。

(神本教育委員)

私は大規模の学校で学んだので、庄原市に来て、教育委員になって初めて複式学級の授業を見させていただき、子供が学校の先生に依存している場面が多いと感じた。先生も限られた時間の中で2つの学年を同時進行で教えなければならないので仕方ないといえば仕方ないが、それを見て自分の子供にそのような教育を受けさせるのかと考えたらそれは嫌だなと感じた。複式学級の良さもあるが、それは教育委員会が教員の加配措置をする等の努力をして成り立っているということになかなか分かってもらえていないと感じている。

今後、英語科、道徳科が進んでいくに従って、今のままではとても難しくなっていくということを分かってもらえていないため、地域が衰退するといった議論ばかりで子供達の教育環境を整えるにはどうすればいいのかという議論になっていないのではないかと。教育委員会から説明はしているが、なかなか理解していただけないところが残念である。

(木山市長)

今の意見は大変貴重な意見だと思う。何のために複式学級になったかという、

その地域の賑わいや活力が無くなるから学校を残す。その結果、複式学級となった。複式学級は単式学級と比べてマイナス面があるにもかかわらず、学校を残すためだけに複式学級の在り方を美化しているのではないか。

子供には新しい学習指導要領に応えられる体制が望ましい。

(神本教育委員)

今までの統廃合と今回の適正配置は意味合いが違う面がある。

(木山市長)

道徳科や英語科が始まることも含めて説明する必要がある。

(牧原教育長)

道徳科と英語科が始まるが、英語の授業をどう展開するかといった時に、本当に難しい。非常勤講師をつけて分ければいいといった意見もあるが、英語を指導できる非常勤講師がいない。そもそも小学校の教員はこれまでなかなか英語の指導ができていなかった。外国語活動の指導力を研修により培い、今力量をつけてきている。国が見切り発車していて、英語科にしてしまったので、慣れ親しむ程度から文章にも触れるところまで求められているので課題は大きい。研究はしていくが、やはり一定の人数で学び合う、人の意見を聞き、人の発音を聞く、コミュニケーションができるところまで持っていけないといけない。

(末信教育委員)

学校がなくなれば地域が衰退するという意見が多いが、今まで口和や比和、高野で統合されたが、今は町全体で盛り上げていこうと新たな地域が作られている。時間がかかるかもしれないが、学校を中心とした地域ではなくて、もう少し大きな地域を作っていかなければいけない。その辺りも理解していただければと思う。

(牧原教育長)

今まで小さい単位で地域の皆さんに子供を育てていただいたことはもちろん感謝しているが、これからも学校のあるなしに関わらず、少し地域を広げ、一緒になって子供に焦点を当てていけば地域の活性化に繋がると考えている。理想のようなことをといわれるかもしれないが、具体的な話をする中で理解を求めていきたい。

(神本教育委員)

スケジュール表を広報紙に掲載していなかったが、説明会ではどのように説明

するのか。新聞に10年後と掲載されたので、私の住んでいる地域の方は10年後に学校がなくなると思っている方がかなりいる。細かいスケジュールを知らない方がいて、住民の理解にずれがあり心配している。

(事務局)

3月の広報しょうばらでは学校適正配置計画のスケジュールを掲載する予定である。

(横山教育委員)

東城地域は2段階になっているので、スケジュールは分かりやすく説明しなければいけない。

(神本教育委員)

先ほど広報紙の話が出たのでお話をさせていただくが、先日、京都府南丹市を視察した際に、子供達が活躍している姿を広報紙に大きく取り上げられているのを見て、ぜひ庄原市も小中学生が頑張っている姿を取り上げていただけたらと思った。

(木山市長)

明日は庄原小学校で児童から提案があると聞いており私も出席するが、写真を撮って広報できればと思っている。

(木山市長)

子供は宝であり、チャンスを与えられる環境を作るのが大人であり、学校であると思う。

(立花教育委員)

子供の読書の推進に予算をいただいて、継続していただけるとのことで感謝している。読書によって親が変わり、幼い時からの読書環境は大切であると実感している。

(木山市長)

必要な時期に必要なものを与えていかないとなかなか身につかないと感じている。

(横山教育委員)

東城地域では、4つの小学校が中学校で1つになる。思春期に差し掛かる中学校

1年生の時期に4つの学校が一緒になることは子供にとってストレスとなり、いじめ等の問題に繋がる。小学校の時にまとまっておけば思春期を穏やかに迎えられるというメリットもある。

(木山市長)

子供達に安心して勉強できる環境を作ってあげたいという思いがある。主人公は子供でその親の立場をしっかりと考え、地域へ粘り強く説明する必要がある。

・その他

(木山市長)

冒頭にも触れたが、庄原赤十字病院で産科が再開できる見通しとなった。また、産科の再開だけでなく、子供を産み、育てる環境づくりとして、小児科診療所と病児病後児保育、子育て支援施設ひだまり広場の整備を進めている。こちらについても皆さんからご指導、ご意見をいただきたい。

(神本教育委員)

13年前に庄原市に来た時に産科がなくなっていて、産後とても苦勞して夜中に三次市まで行くこともあった。お産した後も大変なことが多く、産科が無いことがとても不便であると身にしみて感じ、今回の話を聞いて大変ありがたいと思った。

(末信教育委員)

子供の病気や出産について、若い方はいろんな悩みや心配があると思う。ゆくゆくは、医師の話聞ける機会を設けていただきたい。

(立花教育委員)

小児医療を考える会があるので連携してはどうか。

8. 閉 会 午後4時40分